

自転車で観光楽しもう

佐伯市とJR九州

【佐伯】佐伯市とJR九州は自転車で観光を楽しむサイクルツーリズム振興を目指し、自転車をそのまま列車内に持ち込める「サイクルトレイン」導入を図っている。列車の利用促進を兼ねた取り組みで、10月にサイクルトレインの臨時列車を運行した第1弾のオリジナルツアーを開催。11月13日には第2弾を予定し、「参加者の意見を参考に、本格導入につなげたい」と意気込んでいる。

サイクルトレイン導入狙い

サイクルトレインは目的地の最寄り駅まで列車に自転車を乗せて向かい、下車してすぐにサイクリングができる手軽さが魅力。地方の私鉄が運行するケースが多いという。

第1弾のツアー「サイクルトレイン大入島」には、市内外から自転車愛好家ら15人が参加した。JR大分駅を出発した臨時列車が午前10時半ごろ、佐伯駅に到着。参加者は愛車



第1弾のツアーに参加し、自転車を押し込んでサイクルトレインの臨時列車から降りる自転車愛好家。10月、佐伯市のJR佐伯駅

あすオリジナルツアー第2弾

を押し改札を通過後、葛港からフェリーで大入島に渡り、約17キロのサイクリングコースを走って楽しんで。

第2弾は、与えられた地図を基に自転車チェックポイントを巡り、獲得した得点を競うイベント「さいきサイクルロケイニング2022」（道の駅やよい発着）に合わせて開催。当日は大分―佐伯駅間に臨時列車を出し、15人前後が参加するという。

市は今後もイベントなどに合わせてサイクルトレインを企画。認知度向上に努めながら、将来的には週末や祝日の定期運行につなげたい考え。

古田智市観光ブランド推進部長(59)は「玄関口の佐伯駅整備などを進め、サイクルツーリズムによる地域活性化を図りたい」と話している。

(小松和茂)



ガウンの脱ぎ方について指導を受ける参加者

佐伯の施設職員ら感染症対策を学ぶ

【佐伯】社会福祉施設を対象にした感染症対策研修会が2日、佐伯市向島の市保健福祉総合センター和楽であった。コロナ禍での危機管理意識を高め、クラスター発生防止に努めてもらうと、県南部保健所が開催。市内の高齢者福祉施設や障害者福祉施設から約60人が参加した。

同保健所職員が市内の感染状況について説明した後、市内の医療機関に勤務する3人の感染管理認定看護師が「感染対策（標準予防策）」を見直そうと題し、対策の基本や陽性者発生時の対応について話した。

手袋やエプロンなど個人防護具の着脱・廃棄の仕方、手洗い・手指消毒の方法とタイミングなども実演しながら指導した。

(山本吉純)

